

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

66号

2015年11月16日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DC会館内
TEL 043-222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

闘う労働組合を全国の職場に 国鉄闘争を先頭に新たな挑戦

日比谷野音に5700人 「私たちはストで闘う、



東京・日比谷野外音楽堂で2015年11月1日、全国労働者総決起集会が開催され、5700人が結集しました。韓国・ドイツ・トルコからの代表団も参加し、新自由主義と戦争に反対する労働者国際連帯を確認しました。発言の一部を紹介します。

【ストライキ報告】

■武谷新吾(全日建連運輸連帯労働組合西地区生コン支部書記次長)
いま社会状況は大きく右に旋回していると思います。しかし、動労千葉・港合同・関西生コン支部を始め現場でのストライキでこの情勢を変えていこうと闘っています。

みなさん！ 団結とは、団体交渉権とは、団体行動権とはなんやねんということを出していただければと思います。組合をつくれれば警察が介入、団体交渉を申し入れると「面会

強要」、ストをすると「威力業務妨害」と弾圧を仕掛けてきます。しかし「威力業務妨害」面会強要」がなんやねん。パクリんならバクれと私たちは闘っています。

強要」、ストをすると「威力業務妨害」と弾圧を仕掛けてきます。しかし「威力業務妨害」面会強要」がなんやねん。パクリんならバクれと私たちは闘っています。

相手に嫌がられ、脅威を与えるストライキが必要だと思っっています。アクションを起こせばリアクションは当然です。相手に打撃を与えるために、現場で、職場でのストライキを貫徹し、組合員の要求を実現し、さらにその積み重ねによりこの社会を大きく変えるストライキが必要だと思っています。

■山田護(動労千葉支部長)
動労千葉は10月1日から2日の朝9時まで検修構内運転業務外注化の撤回を要求してストライキを貫徹しました。

JRは3年前に検修業務の外注化を強行し、多数の組合員がCTSへ強制出向させられました。...

1047名解雇撤回まで闘い続ける

【呼びかけ労組から】

■中村吉政(全国金属機械労働組合港合同委員長)
大阪では、橋下市長による「不当労働行為」「団結権破壊攻撃」と真っ向から闘ってきました。

大阪府・市では4年前のダブル選挙を彷彿とさせる前哨戦が始まっております。橋下市長や、維新の会の横暴を許したら、す

た。会社は出向期限の3年を過ぎたにもかかわらず出向延長を命じました。

そんな中、JR千葉支社は支部青年部員に対して出向解除を強行してきました。JRに戻っても構内運転の仕事はありません。生活まで破壊する攻撃です。

絶対に許すことができません。約15年、外注化に反対し阻止し遅らせてきました。その闘いの中から約30人が動労千葉に加入してくれました。今後も外注化を止めJRに関係する業務と労働者を直営直接雇用に戻すために全力で闘います。

■山中茂男(動労千葉木更津支部長)
5月に8人の仲間がCTSより動労千葉に加入してくれました。3年前の外注化強行で4人の組合員がCTSに強制出向させられました。私たちがCTSで働く条件が本当に過酷であること

すべての労働者に悪影響をもたらします。一つ一つの権利侵害に敏感に対応して反撃する陣形を構築することが私たちの任務ではないでしょうか。

港合同は、橋下市長のような労働組合も守らない自治体の長、弁護士を絶対に許すことはできません。不当労働行為を黙認したら全国の労働者に影響をもたらします。

だからこそ港合同は、公然と団結権を破壊する者とは断固として闘うのです。正義の闘いで

す。今後、暗黒の4年間を送らないためにも引き続き官民連帯の地域共闘を軸にして闘い抜く

が分かりました。

第2の分割・民営化攻撃の軸となっている外注化とローカル線切り捨て攻撃は現在、JRグループの再編として、清掃会社の統合や工場への二重出向として進められています。11月1日付でさらに1人の仲間が動労千葉に加入してくれました。

■高澤成夫(動労千葉運輸区支部長)
昨日、43年の歴史のある自分の職場が廃止され、千葉運輸区になることに反対してストに立ちました。動労千葉の拠点だった職場を廃止して強制配転で組合員をばらばらにする露骨な組織破壊攻撃だったからです。

今回は配転はありませんでしたが、駅の外注化がますます規模で行われています。こういったことと闘わなければならぬとひどくなっていると思いませんか。これからも闘います。

決意です。
6月30日、最高裁は3年におよぶ解雇撤回闘争に判決を下しました。国鉄分割・民営化攻撃の根幹である採用・不採用が国家的な不当労働行為であったことを最高裁は確定しました。しかし最高裁は解雇を撤回させませんでした。絶対に許すことができません。私たちはこれからも闘い続けます。

戦争を止めるために全力を尽くそう。アメリカ帝国主義が画策している朝鮮半島の戦争に与することが安倍政権の本音です。なぜ社会の主人公である労働者がこれほど踏みにじられなければならないのか。非正規・貧困・格差、どれだけの労働者が涙を流したんですか。それに加えて戦争、冗談じゃない！

国民連合政府だとか選挙協力とか国会のみに全部を閉じ込めることですか？ 違う。僕ら一人ひとりが社会を動かす力を持っている。労働運動がストを叩いて社会に登場し、主人公だと声をあげることです。

私たちも、JR本体では第2の分割・民営化攻撃を粉砕するために、そしてCTSでは本當にひどい労働条件を打ち砕く奮闘をやり抜くために、そしてこの二つの闘いで闘う労働組合を甦らせるために、組織拡大のために全力で奮闘します。

■石井真一(動労水戸委員長)

動労水戸は9月28日、ストに立ちました。3年たってもMTSは独自で仕事できない。出向者がいなくては仕事成り立たない。そういう外注化は即やめ

JR東日本は駅の外注化をどんどん進めています。それとリンクしているのがライフサイクルです。動労水戸の會澤君を駅に出そうという攻撃がきています。この攻撃を動労水戸は全力で粉砕することを宣言します。

動労水戸に対して昇進試験差別が行われています。動労水戸に結果してくれた照沼君も今年また試験に落ちました。こんなことを絶対に許すわけにはいきません。

私たちは、JR東日本の組合破壊、新自由主義を推し進める政策を動労総連合を全国につくって全力で粉砕します。



国鉄闘争は生きている闘いこれから

【特別アピール】

■鈴木達夫(許すな改憲！大行動)

安倍は危機の中で立ち往生しています。アベノミクスの第2ステージとほざいている。家計の消費支出は落ちるばかり。原因は2千万の非正規労働者を中心とする貧困問題だ。「食えない。生きさせろ！」がこれほど切実な時代はありません。

【国際連帯の訴え】

■ソノジョン(民主労総ソウル地域本部事務局長)

安倍政権の軍国主義再武装に反対した労働者人民の抵抗闘争は日本全域を揺り動かしています。過去、日本の軍国主義支配勢力が起こした戦争で、日本だ

闘つことを決意しています。同志のみならず。新自由主義・資本主義を終わらせましょう。

【解雇撤回へ】

■金元重(国鉄闘争全国運動呼びかけ人)

国鉄分割・民営化攻撃の核心は、国鉄からJRに会社の看板だけを変えて新会社JRが新規採用する名目で解雇を自由に行うことでした。

しかし2010年4月9日、国労本部は政治決着で闘いの旗を下ろしてしまいました。

私たちは政治和解路線に反対して同年6月、「国鉄闘争の火を消すな!」の呼びかけのもとに国鉄闘争全国運動をスタートさせました。その闘いの重要な柱が1047名解雇撤回裁判闘争でした。

6月30日の最高裁決定は、地裁、高裁段階で認定された不当

労働行為、不採用基準の策定自体が不当労働行為である明確な認定を覆すことができず、上告棄却、高裁判決確定の判決を出さざるを得なかったのです。

これは日本の労働運動史上、特筆すべきことであり、政治解決をのりこえて闘いを進めてきた国鉄闘争全国運動の切り開いた大きな地平だと思えます。

9月9日、動労千葉はJR東日本本社に対して、国鉄分割・民営時のJR不採用になった9人の組合員の採用を要求して堂々の申し入れを行いました。

10万筆署名の重みをもった厳粛なる団体交渉要求です。

国鉄闘争、どこい生きていく。闘いはこれからだ! ともががんばりましょう。

■中村仁(動労千葉争議団)

先日、物販でいわきに行きました。物販の注文がありました。原発事故からの避難で本当に大変な状況に闘いぬぎます。

職場と仕事をJRに戻せ!スト貫徹

【動労総連合を全国へ】

■漆原芳郎(動労連帯高崎副委員長)

9月12日に高崎鉄道サービス(TTS) 籠原事業所と熊谷事業所でストに決起しました。

強制出向から3年。職場と仕事をJRに戻せ! そして出向者全員をJRに戻せという課題。さらにはTTS労働者の賃金をあげろ! そして人を増やせ! そう訴えてストライキに決起しました。

上野東京ラインの開通にもなつて籠原事業所では業務量が大幅に増えた。しかしTTS本

社の言い方は「定時で仕事が終わっているから要員は足りている」という言い方です。

現場の労働者が四苦八苦しながら駆けずり回って仕事をしていることをまったく顧みようとしていません。これからはTTSとJR本体の闘いを結びつけて闘います。

■岡崎昭夫(動労西日本執行委員長)

私の職場は広島印刷事業所です。2016年7月31日をもって事業所を廃止する攻撃をかけられています。

現在JR各社では第二の分割・民営化ともいうべき攻撃を

開始しています。島根県と広島県を結ぶ三江線の廃止が打ち出されたように公共交通機関としての社会的責任を投げ捨て、

広島駅周辺で行われている再開発や駅中ビジネスを追及する企業に変わろうとしています。

印刷事業所の廃止計画はJR西日本における第二の分割・民営化攻撃の突破口としてあります。

「絶対反対!印刷事業所廃止計画白紙撤回」以外に攻撃を粉砕する道はありません。条件闘争ではありません。印刷事業所の仲間の決起を作り出していきます。

■中村幸夫(動労神奈川委員長)

変にもかわらず動労千葉として彼らとつながることができずした。動労水戸が被曝労働拒否で闘い、福島の人たちが原発事故のことをなかつたことにしない闘いをやっているからです。

動労千葉も解雇撤回を闘つたためにこれからもみなさんと一緒に物販で闘います。

■羽廣憲(国労闘争団)

戦争を実際にやると決断した安倍政権に与するわけにはいかない。全世界の労働者が階級的に団結し連帯し労働者が労働者として生きられる社会をつくり、その社会を運営する。そのために闘う労働組合の建設が絶対に必須不可欠です。

その観点から私たちは動労総連合を全国に建設する闘いに着手したいと思えます。原告団はさらなる団結、新たな団結を求めてこれからも先頭に立つてみなさんとともに闘いぬぎます。

労働者の団結でゼネストを打ちぬぎ、戦争を阻止する闘いを世界の各地で大合流させていくことはありませんか。

■橋本光一(動労福島委員長)

9月10日に結成しました。私たち動労福島は、安倍の戦争政治とJRの外注化・総非正規化、それから福島における被曝労働拒否をストライキで闘うために作った労働組合です。

JR東日本はいま、動労福島に対してあらゆる攻撃を仕掛けてきています。この攻撃を職場の仲間、組合の仲間、それから動労千葉、動労総連合の仲間、すべての労働者の仲間とともにぶつ飛ばして、蹴散らして、動労福島を強化し拡大していきたいと思っています。